

本ガイドラインについて

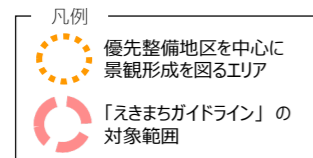
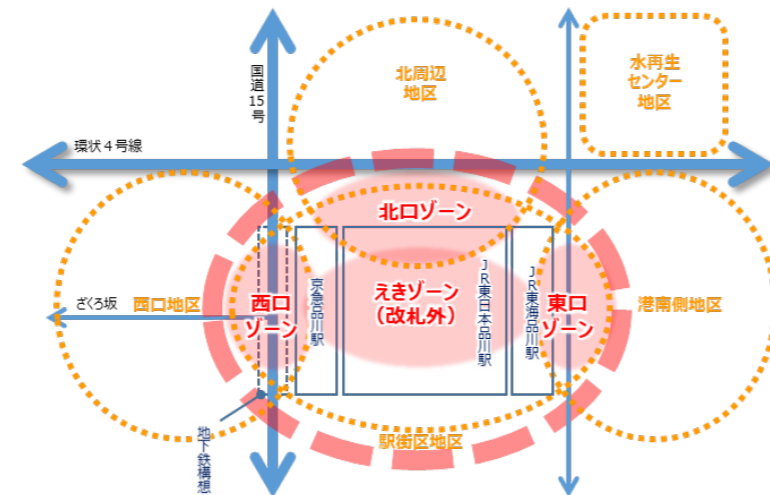
ガイドライン策定の目的

品川駅周辺では、都市基盤整備に合わせた大規模建築物の整備が予定されており、「日本の玄関口」に相応しい空間・景観形成を行うために、各事業間の調整・連携を図ることが是非とも必要となっています。

そのため、「これからの日本を牽引する国際交流拠点・品川」の実現に向けて、品川駅を中心に駅とまちが一体となった都市基盤整備、空間・景観形成の目指すべき方向性を示し、複数の多様な事業者による計画・事業の調整を行うための指針として「品川駅えきまちガイドライン」を策定します。

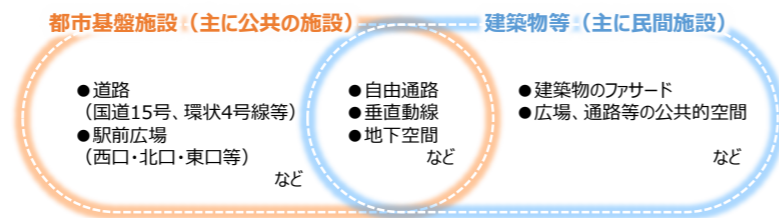
ガイドラインの対象範囲

本ガイドラインにおける対象範囲は、品川駅西口・北口・東口等の各駅前広場を中心として、広場上に立つ人から視認できる範囲に加え、えき（改札外）の歩行者空間や垂直動線等をおおよそその対象としています。



ガイドラインの対象施設

本ガイドラインでは、道路や各駅前広場等の都市基盤施設、建築物のファサード、民地内の広場、通路等の公共的空間、自由通路、地下空間や垂直動線等の施設を対象としています。



<対象施設のイメージ>

ガイドラインの構成

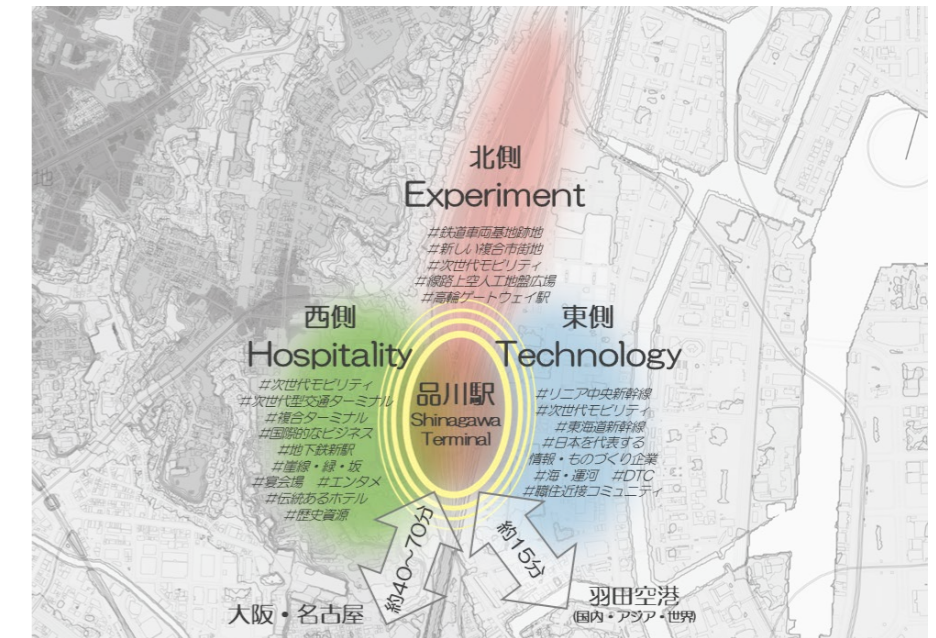
本ガイドラインは、背景や目的、地域特性とポテンシャルに基づき、品川駅を中心とした「品川駅えきまちガイドライン」対象範囲全体に共通する考え方として「品川駅 えきまちコンセプト」を整理し、そのコンセプトを実現する三つのポリシーを掲げ、各ゾーンにおける方針へと展開しています。また、個別施設の計画案についての議論・調整が図られるよう運用していきます。

個別ゾーンについては、今後、段階的に策定することを予定しています。

また、ガイドラインの対象範囲に係る開発計画については、ガイドラインを踏まえた計画となるよう検討を進めるとともに、策定後の運用段階においても関係者間の調整が図られるよう運用していきます。

品川駅 えきまちコンセプト

継承 × 革新
Timeless × Innovative
SHINAGAWA
Integrated City

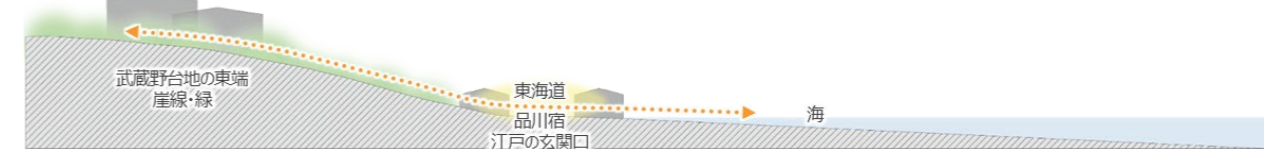


品川駅を中心として、三つのまちがこれまで培われてきた自然や歴史を継承し、それぞれの個性を深めながら新たなまちに生まれ変わっていきます。そして、この三つのまちを、品川駅えきまちとして、一つに結び付け、統合していくことで、新たな文化、技術などの革新を創出し、発展し続けていきます。世界とも結ばれるこのまちは、人々を引き寄せ、「国際交流拠点・品川」として日本の成長を牽引していきます。

品川駅周辺の地域特性とポテンシャル

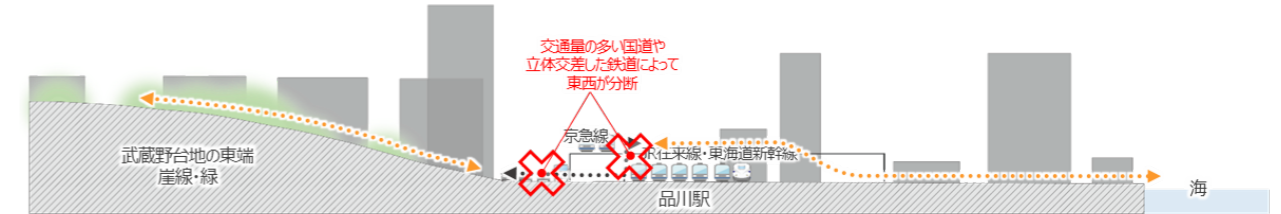
過去 東海道沿いと崖線の緑・海辺がつながっており、まちと自然がつながる、「江戸の玄関口」として栄えた

品川駅及び周辺は多様な人々にぎわう東海道が通り、直ぐ西側には崖線・緑・坂が、東側には海が広がっていた。また、品川駅南側には、東海道五十三次の第一宿「品川宿」があり、西日本から陸路・海路で多様な人々が集まる「江戸の玄関口」として栄えた。



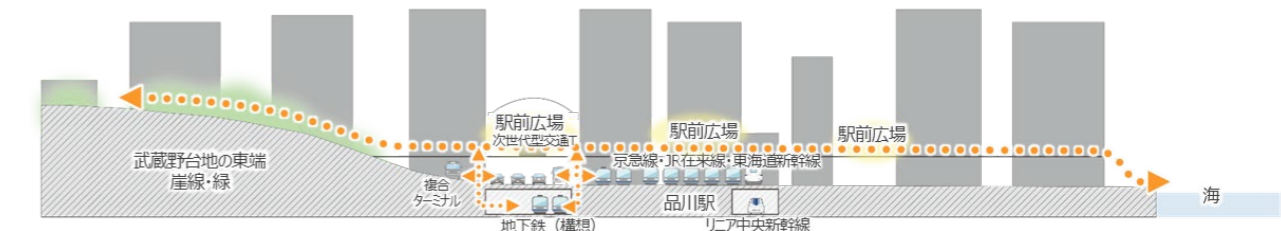
現在 広域交通結節点/迎賓空間/情報・ものづくり企業群等として発展してきたが、車両や鉄道等で必然的にえきまち・自然が分断

品川駅は、鉄道各線に加え羽田・成田空港との直結など、国内随一の広域交通結節点である。駅西側はおもてなしの街、駅東側は情報・ものづくり等の先端技術を発信する街として発展してきたが、道路・鉄道等により西側と分断された場所に東側が造成され、品川駅と周辺のまち、西側の崖線・緑、東側の水辺が分断している。



未来 更なる新交通モードの集積に加え、駅前広場整備や段階的都市更新等が予定される

品川駅は、今後、更なる多様な新交通モードの集積と段階的な都市更新による「国際ビジネス・宿泊・交流拠点」の強化など、世界から人・モノ・情報を引き付ける「日本の玄関口」を目指す。また、国道上空デッキ等の駅前広場の整備や、段階的な基盤更新により、歩行者空間やモビリティ空間の強化が図られる。



品川駅 えきまちコンセプトを実現する三つのポリシー

①それぞれのまちの履歴を継承し、革新を生み発信し続ける

「まちの履歴＝品川らしさ」の継承

品川駅周辺は崖線、緑、海等の豊かな地形・自然等を活用しながら、ホテル等の集積によるおもてなし空間の形成や新幹線の開業、日本を代表する情報・ものづくり企業の集積、鉄道車両基地活用による新市街地等、その時代のニーズに应运ってきた「まちの履歴」があり、これらが現在・未来へと継承すべき品川らしさに繋がっていることから、「まちの履歴」を継承することが必要です。

革新を生み発信し続ける

日本の玄関口として、品川らしさである「まちの履歴」を継承しながら、今後予定されている国道15号上空デッキや次世代モビリティ、リニア中央新幹線等に加え、文化・技術等の革新（イノベーション）を生み、発信（実験・実証・挑戦）をし続けることで、国際交流拠点の強化を目指します。

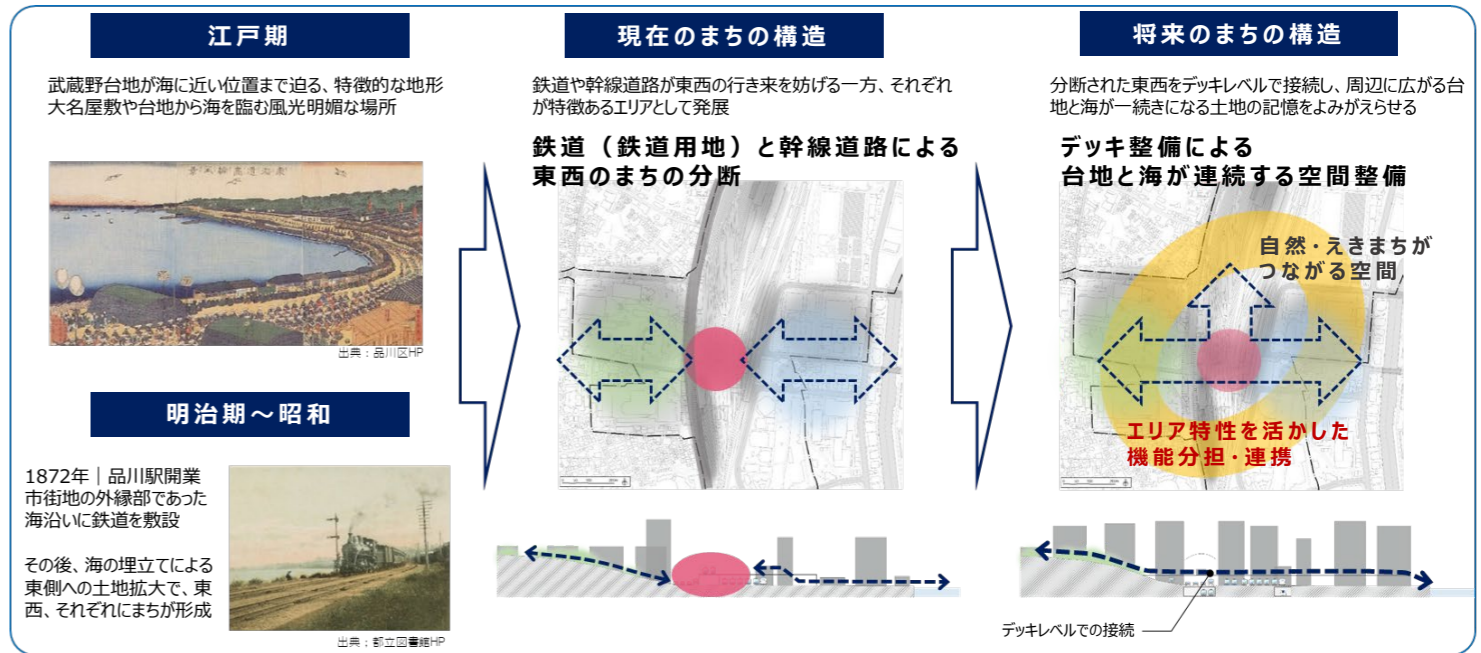
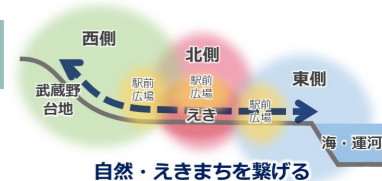


②広場やデッキ等をいかし、自然とえきまちをつなげる

「自然」と「えきまち」がつながる一体的なエリア

駅西側の武蔵野台地が駅東側の海に近いところまで迫っていた地形と、鉄道開業による土地の広がり（埋立て）により形成されてきたまちです。

かつて一続きだった台地と海を緩やかに連続させながら、自然とえきまちが繋がる一体的なエリアを目指していきます。



③多様で立体的な交通モード間をシームレスにつなぐ

各機能をシームレスにつなぐ

品川駅は、東京と日本の各地を結ぶ広域交通の拠点であり、また、国際空港との近接性をいかした国外とを結ぶ玄関口として位置付けられます。首都圏近郊に対しては、在来線のターミナル駅として各鉄道への乗換えなども行われる交通拠点としての役割も担っています。

今後は、新たなモビリティの導入により利用者側の選択肢が更に増えることから各モード間をシームレスにつなぐ重要性が高まるとともに、総移動時間の短縮とそれに伴うゆとり時間の活用にも配慮した計画が重要となります。

また、区内を徒歩移動する人にわかりやすい動線やサイン計画など、ユニバーサルデザインに配慮した空間づくりや区内での物流分野を支えるインフラ整備を含め、「人」と「モノ」の移動の円滑化を図っていくことも重要となります。

